

(事後C)

評価委員会総合評価

研究課題名：衛星データの利用技術に関する研究

評価委員

委員長：瀬上 哲秀

委員：三上 正男、中村 誠臣、齊藤 和雄、露木 義、山田 眞吾、
藤部 文昭、角村 悟、横田 崇、蒲地 政文、千葉 剛輝、井上 卓

評価年月日：平成 25 年 12 月 24 日

1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった。
- 優れた研究であった。
- 研究を実施した意義はあった。
- 失敗であった。

2. 総合所見

本研究により、雲・雪・氷粒子の光学モデル、多波長サウンダのアルゴリズムと大気プロファイル推定技術、多波長赤外サウンダのデータ同化技術など、着実に基礎・基盤的技術開発を進め、成果を上げている。

当初計画のうち、数値予報モデルでの衛星データの利用技術に関しては、重点研究課題「全球大気データ同化の高度化に関する研究」に移行し、衛星データ利用技術に関して重要な放射伝達モデルの開発と多波長サウンダ利用技術に関して一定の成果が得られた。

特に、光学モデルの開発では、非球形粒子による散乱を扱えるよう放射計算での非球形効果の影響を取り入れることを可能にし、科学的意義があったほか、所内のエーロゾル・雲に関する研究課題で利用されるなど、他の研究への貢献も大であった。

査読論文は8編（うち7編が国際誌での主著者原著論文）であった。少人数の研究体制ではあるが、基礎的研究であることから、更に積極的な取組みを求める。

本研究における成果は、次期静止気象衛星ひまわりの観測データの高度利用のための技術的基盤となることから、引き続き、次期中期研究計画での重点研究の副課題として衛星利用技術の高度化研究を進展させ、ひまわりの多チャンネル観測データを気象業務に活用するためのプロダクト開発を含む研究に取り組んで欲しい。また、雲・降水域でのリトリーバルや多層雲、薄い雲域での赤外輝度温度の同化は、最先端の研究であり、今後の発展に期待する。